

06

川内地区棚田保存会

武雄市川内



棚田を楽しむ、
音楽を楽しむ
豊かな時間が紡がれる場所。

キッカケ

佐賀県のほぼ中央にそびえる八幡岳。その南麓、武雄市北部の標高200～300mに若木町川内地区の棚田が広がっています。近くには樹齢100年を超える山桜があり、雨上がりの朝には神秘的な雲海が広がるなど自然を楽しめる一方で、棚田の担い手の高齢化や後継者不足で不耕作地が増加。農地保全や地域活性化の取り組みとして、平成30年から音楽祭や棚田オーナー制度などに取り組んでいます。



組織概要

川内地区のシンボルでもある山桜は、地名にちなんで「ジラカンス(白観巢)桜」と呼ばれ、地域の人々に親しまれてきました。四方に広がる見事な枝ぶり、ため池の水面に映る姿が美しく、開花時期には県外など地域外からも花見客が訪れます。そんなジラカンス桜を守るために、地元有志で保存会を発足。環境を整備するだけでなく、開花時期のライトアップや写真コンテストを開催するなど、精力的に活動してきました。この保存会が母体となって結成されたのが川内地区棚田保存会。40代から70代まで28名が所属しています。



中山間地域での挑戦



つながり

棚田オーナーは武雄市外がほとんどで、「ありがたいことに、受け入れの枠はすでにいっぱい。それでも希望者がいらっしゃるのでキャンセル待ちの状態です」と向井さん。音楽祭では、第1回から出演するシンガー・ソングライターのハマノユリナさんが、「若木町は第2のふるさと」だと語り、川古の大楠をイメージしたオリジナルソング「大楠の樹」を制作。棚田の保全活動によって新しい出会いが生まれ、その交流が地域の元気につながっています。

耕す未来

会員に負担をかけず、無理な活動をしていないことが取り組みを続けられるポイント。川内の棚田をプラットフォームに、市町など外部団体がイベントを主催してくれるように仕掛けていきたい。音楽祭の会場になっている天満宮は、昔から地域の人たちが集う場所であり、娯楽を楽しむ場所。天満宮を人であふれさせるようなイベントを企画し、棚田を元気にして、若木を元気にして、武雄を元気にしたい!



● 満員御礼のタナディアンロッキー (棚田オーナー制度)

八幡岳の山容がカナダのロッキー山脈を彷彿させることから、川内の棚田を耕作する人々を「タナディアンロッキー」と命名。現在、企業や個人など22組が約70aの棚田オーナーとして契約。

● 収穫の感謝を分かちあう音楽祭を開催

地区内の天満宮を会場に、平成30年から「棚田人音楽祭(タナディアンミュージックフェスティバル)」を開催。県内外のミュージシャンが出演するライブのほか、棚田の新米や特産品などを販売。

● ジラカンス桜の保全活動

桜のライトアップや写真コンテストなどを実施。



向井 健作さん